

優秀賞（事務次官賞）

作文の部 中学生

『土砂災害について』

防府市立華陽中学校
二年生 藤野 智大

僕は、昨年の土砂災害がおこった時、川の近くにある祖父母の家にいました。雨が降ってきた時には、僕はまだ豪風雨になるということは知らずに、普通の生活をしていました。しかし、雨はだんだん強さを増していき、川もあふれているころ、僕はだんだん不安になり、早く雨がやんでほしいと思っていました。けれども、雨がやまず、ついに川があふれて道路にでて、道路がいきなり僕のひざより少し下の部分位まで追ってきました。そして、トイレに行ってみると、どンドン水が逆流してきました。僕は、いつこの祖母の家が床下浸水するかわからなかったのであせっていました。けれども、祖母の家の災害はトイレの水の逆流だけでおさまったからその時はよかったと思いました。だが、この後にテレビのニュースでこの災害のことが放送されたとき、驚きと不安がこみあげてきました。

この災害は、僕は祖母の家の近くでしかおこってない事だと思った。しかし、ニュースでは、老人ホームが土砂災害にあって、何人かが死亡したり、道が土砂崩れでふさがるといことがどのニュース番組でも放送されていた。とても悲しかったので、なぜこのようなことがおこったかや、対策を考えてみることにしました。

まず、なぜこのようなことがおこってしまったかを考えた所、地球温暖化の影響だと思いました。それ以外にも、避難勧告がだされるのが遅かったなど色々な事が浮かんできましたが、考えなおしたら、自分達でも対策ができるのに、してなかったことがいけないと思いました。そして次に対策を考えることにして、頭に浮かんできたことは、市では、今やっているけど、できるだけ早めに避難勧告をだすことです。そうすると、学校などに避難できる人がより多くなり、災害を弱めることができるようになると思ったからです。そして、これから自分達にできる対策は、家が二階建ての場合はなるべく二階に寝て、一階しかない場合は、家の中の軽い荷物は山から遠ざけて置き、重い荷物は山（川）の方側に置いて土砂崩れによる災害を弱くするという事です。けれどもこの二つよりも良いのは、やはり、自分で何か変な音（土砂の音）を探知して、急いで逃げの方が良いけど、耳の聞こえない人や、寝ている人はこの前の二つの案の方がよいと思いました。自分でもこのことは実行しようと思いました。しかし、時間は戻らないので、この土砂災害で死亡した人はもう二度とこの世には戻ってきません。今こういうことを思ってみると、まだかなり悲しい気持ちに思えてきます。そこで、僕は少しでも土砂災害の被害を受けた人を助けたいと思い、ボランティア活動に参加することにしました。

ボランティア活動には、土砂災害にあった人の依頼があり、それをボランティア活動に参加した人でその依頼をしている人の家に行って家具のかたづけや、土石流を取り除いたりする活動です。何故か分からないけれど、中学生で参加していたのは僕だけでした。僕は、災害があってから二週間位して行ったので、土砂はほとんど取り除かれていましたが、少し残った土砂を取り除く作業と、家具の整理をするのを手伝いました。家の人が毎日、かたづけたりしているということを聞いていたので、僕は全然疲れを感じる事がなくボランティア活動を終えることができました。僕は、このボランティア活動を終えると同時に、一件の家を救えたという達成感がこみあげてきて、さらに恐いということを改めて知りました。

僕は、この豪風雨（土砂災害）を体験してみて、ボランティアの時に行った家のように、停電や土砂災害にもし自分があつたら、何も対策をしていないし、山の目の前なのでとても大きな災害になっていたと思います。

この防府市（山口県）でいつまたこのような災害がおこるかわかりません。だから、災害に備えて、何か対策などを考えていたほうがよいと思っています。そして僕は、強い雨が降った時には、このような災害にならないように祈りたいと思います。